

令和５年度 岡崎市農業振興ビジョン推進委員会 ユニバーサル農業推進部会
会議録

1 会議の日時及び場所

令和５年９月２８日（木）１４時～１６時

岡崎市役所西庁舎７階７０２号室

2 出席部会員等の氏名

部会員７名のうち６名出席

安藤 正巳	（あいち三河農業協同組合営農企画部長）
藪本 真也	（社会福祉法人愛恵協会管理者）
小原 幹代	（岡崎女子短期大学准教授）
中川 郁朗	（愛知県立みあい特別支援学校教諭）
柴田 若江	（岡崎市農業委員）
加藤 智子	（あいち三河農業協同組合女性部）

3 会議次第

内容

- 1 市民農園事業について
- 2 岡崎市農福連携事業について
- 3 みあい特別支援学校農福連携の取り組みについて
- 4 懇談会への移行について
- 5 その他（一万人鍋等）

4 会議要旨

内容

1 市民農園事業について

市民農園開園状況等について、事務局から説明。また、有機農業を主とする市民農園開園の検討について、委員に意見を依頼。

○加藤委員

有機農産物はニーズがあるため、有機農業を行うことは良いが、有機農業を一から始めることは、ハードルが高く思われる。

○安藤委員

市民農園は、利用されたい方も多くみえ、農地を守っていくという点で、必要であると認識している。ただ、市民農園を有機農業で行うことは、堆肥等の臭い、虫の発生懸念があり、市民農園周辺住民方々等の理解が得られないと難しい。

2 岡崎市農福連携事業について

岡崎市農福連携事業について、事務局から説明

○柴田委員

実際に、農福連携を自身の農園で実施したが、福祉事業所の利用者の皆さんは、非常に真面目で集中力があつた。繁忙期に作業を依頼でき、大変助かった。また、自分たちだけでは、行えなかった部分に手をかけることができたため、結果良い農産物を生産できた。

○藪本委員

愛恵協会愛恵園授産所で、昨年からは農業を開始した。農業は、意欲が出やすく、外での作業のため明るい雰囲気となる。一年を通じてなるべく仕事ができるように、作目を考えた。額田地区でも新たに耕作を始めたが、獣害にあつてしまったため、対策をとっていきたい。利用者の中で、農業関係に就職ができた人も出た。

3 みあい特別支援学校農福連携の取り組みについて

みあい特別支援学校農福連携の取り組みについて、中川委員から説明。

○小原委員

先日の岡崎女子短期大学の大学祭では、企画時に学生から、福祉マルシェを実施する案が出て、みあい特別支援学校に出展いただいた。学生も福祉との関わりに関心を持っている。

○中川委員

現在学校での課題の一つに、遠くの畑に行くための移動が困難なため、活動が限られてしまうことがある。車をどこから借りることは可能かもしれない状況であるが、運転手がいらない。

(事務局) 市で運転手の手配は難しい。父母の会やボランティア等の活動で、送迎について検討をお願いしたい。

○中川委員

検討を行う。

4 懇談会への移行について

ユニバーサル農業推進部会からユニバーサル農業推進懇談会への移行について、事務局から説明

5 その他（一万人鍋等）

どうするNABE-1 岡崎城グランプリ～一万人鍋～等について、事務局から説明

終了を宣言。